

4月21日に、本校3年生219名を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を使う調査も実施されており、生活習慣と学力の関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

国語（A・B）、数学（A・B）、理科ともにすべて全国平均を上回っています。無回答率も全国平均と比して低い水準になっています。1年生から実施されている学習確認プログラムの結果からも同様の傾向が見られます。学校全体として生徒が前向きに学習に取り組み、最後まであきらめずに問題に粘り強く取り組む姿勢が育まれつつあります。

国語科より

全体的によくできています。特に、主に活用する力を問うB問題では、全国平均を大きく上回りました。

文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力を問う設問や、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う力を問う設問においては正答率も高く定着している様子がうかがえます。

「書くこと」に関しては、「根拠を明確にして自分の考えを書く」ことや「資料を参考に自分の意見を書く」という設問において、根拠や具体性が欠けるなどの誤答が見られます。表現力の向上のために多様な文章に触れるなどを意識して学習をすすめましょう。

理科より

全体としては全国平均を少し上回りました。生徒の理科学習への関心も比較的高めです。

生物的分野や化学的分野はよくできている一方で、地学的領域と物理的領域に少し課題があります。具体的には、天気の記号から風力や風向を読み取り、風向計を使って観測する知識や技能、さらに知識を活用しながら資料をもとに他者の考えを考察し改善するという設問や、凸レンズについての実験結果を分析し対応関係を解釈する設問の正答率が低くなっています。

身近な物理現象に親しみ、経験したことと振り返り、学習したことと関連付けて事象を捉える視点を持つようにしましょう。

数学科より

基本的な計算問題はできていますが、以下の分野が少し気になります。

- 具体的な事象を扱う問題でその数量関係を文字式で表すこと
- 日常的な事象を扱う問題で適切にデータを活用すること
- 資料の活用とその説明

実生活の様々な場面における数量や増減などを数学的に解釈・表現する力や、目的に応じて資料を収集しその傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるように、日頃から日常生活や社会における問題に目を向けるようにしましょう。

生徒質問紙調査から

生活習慣や規範意識がしっかり身についており、また自尊感情も全国平均より9.8ポイント高い結果になっています。本校の学校教育目標のもと、生徒たちが充実した学校生活を過ごしていることの結果だと考えています。

テレビ等の視聴時間、ゲーム・携帯電話等の使用時間は全国平均よりも低く、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。

ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がある」という設問は低めの数値が出ています。新聞やニュースを通して社会の出来事にも目を向けましょう。